

News Letter

第13号

県立図書館児童サービス担当者のためのニュース・レター

〒104-0033 東京都中央区新川 1-11-14 TEL 03-3523-0814
社団法人日本図書館協会 児童青少年委員会
2007. 9. 22 発行

全国図書館大会東京大会分科会に参加を！

児童青少年委員会委員長 坂部 豪

10月30日(火)に開催される全国図書館大会東京大会の児童青少年委員会で担当している分科会について、ご案内するとともに、皆様の参加をお願いします。

分科会テーマ：児童図書館員の養成・研修を考える

子どもの読書活動の推進に関する法律の制定以来、子どものための読書活動推進は以前にもまして大きな課題となっています。その中心的な役割をになうことを期待されているのが、公立図書館の児童サービス担当者です。

戦後日本の公立図書館は、子どもを対象とした図書館サービスを開始したのをきっかけに大きく発展してきました。特に、児童サービスは、戦後数多くの多彩な子どもの本が出版されたこととあいまって、子どもの本の評価の確立や、子どもと本を結びつけるさまざまな方法を確立するなど、大きく発展してきました。その成果に基づき、児童サービスのさらなる発展をめざして、日本図書館協会では児童青少年委員会を中心となって、児童サービスの指導者となりうる人材を養成する、児童図書館員養成講座を実施してきました。

しかし、公立図書館は今、窓口業務の民間委託などの地方自治体の定数抑制策が進み、図書館業務を維持していくための人員が減ってきた結果、児童サービスを実施する時間的な余裕がないという段階から、そもそも児童サービスを継続し発展させていくための職員がいないという段階へ事態が進んでしまう可能性もでてきました。

そこで、今回は児童サービスの担い手である児童図書館員を育てていくための研修に焦点をあてたいと考えています。午前の部では児童図書館員の養成・研修を実施されている各図書館の方々に、それぞれの図書館での研修の現状と問題点、あるいは課題を報告していただきます。午後は、その報告を受けて、今後の児童図書館員の養成・研修のあり方について、あらためて考えてみます。児童図書館の今後の発展のために、しっかりとした養成・研修体制を確立していく方策を考えていきたいと思えます。皆様のご参加をお待ちしています。

午前の部 事例発表 9:30~12:30

- (1) 浦安市立図書館における児童図書館員研修／島本まり子（浦安市立中央図書館）
- (2) 福岡県立図書館における児童図書館員研修／河井律子（福岡県立図書館）
- (3) 日本図書館協会の児童図書館員養成講座／宍戸寛（児童青少年委員会）
- (4) 国際子ども図書館の児童図書館員研修／福土輝美（国際子ども図書館）
- (5) 東京子ども図書館の児童図書館員研修／内藤直子（東京子ども図書館）

午後の部 パネルディスカッション 13:30~16:30

コーディネーター 中多泰子（児童青少年委員会）
パネリスト 事例発表者

児童青少年委員会は、IFLAの児童・青少年分科会の国内窓口の一つとして、児童青少年委員会の委員である依田和子さんを派遣しています。ここでは、IFLA 児童・青少年分科会の資料から、世界の児童図書館界の現状を知ることのできるレポートをお届けします。

IFLA 児童・青少年分科会の歴史とこれから

1955年、IFLAブリュセル大会で、公共図書館分科会により設置されたCHIFLA（児童に関する図書館業務委員会）は、1977年、「児童・青少年分科会」と名を改め現在にいたっています。

この50年間、「児童・青少年分科会」のメンバーは、セミナーの開催、IFLA大会への参加、出版物やガイドラインの作成、プロジェクトの実施などの活動をしてきました。

1991年「児童サービス・ガイドライン」が、1996年「青少年サービス・ガイドライン」が発表されました。これらのガイドラインは各国の言語に翻訳され、IFLANET上でも入手可能です。

さらに2003年の12月、当分科会は「子どものための図書館サービスに関する新しいガイドライン」を出版しました。ガイドラインでは、「子どものための図書館サービスが世界中の子どものみならずその家族にとっても重要であるということ」と、「子どもの図書館の質は生涯続く学習能力と読み書き能力の鍵を握り、子ども達が社会に参加し貢献することを可能にする」ことを重要視しています。

将来に向けて話題の中心となっているのは、

- ・ 社会における図書館の役割を支援すること
- ・ 読み書き能力、読解力、学習能力を促進させること
- ・ 情報に自由にアクセスできるようにすること
- ・ 専門知識の共有
- ・ 知的遺産の保護
- ・ 図書館の専門家の育成
- ・ 基準、ガイドライン、実践を押し進めること

・・・などですが、当分科会は、読み書き能力とパートナーシップを優先課題としています。IFLAの他の分科会と、また関連団体や組織とネットワークを作ることは、分科会が知識や経験やアイデアそしてプロジェクトを交換するための国際フォーラムを開催するといったような仕事のためには必要不可欠と考えられます。それはまた対話や協力や発展のためのフォーラムの開催にも繋がるでしょうし、全世界を通じて同じ情報を共有するためのチャンネルを開くことにもなるでしょう。私たちはこれまで述べてきたような活動が分科会の将来の仕事へのスタートになると同時に、21世紀の児童青少年のための図書館サービスの発展に繋がると信じています。

IFLA 児童・青少年分科会委員長 Ivanka Stricevic (クロアチア)
(2005年8月15日 IFLA オスロ大会におけるスピーチの抄訳)

オランダの読書推進活動

オランダにおける読書推進活動は1970年代に始まった。国を挙げてのこのプログラムには、約10万人の子どもたちが参加している。この読書推進活動は、オランダ公共図書館協会によって企画されているが、期間や運営方法については、それぞれの図書館に任されている。この活動は毎年違ったテーマを掲げ、活動のための材料は毎年夏に発表され、12月に配布される。

必要な材料（ポスター、プログラム、地方向けのポスター、参加証とラベル、認定証、ご褒美、ブックマーク、塗り絵）は、全国レベルで作成される。また図書館内の設営や、活動の宣伝や紹介に関する支援も行われる。タイトルやテーマに関する活動への助言は「作業部会」によってなされる。例えばアート、工芸、読書、ストーリーテリング、作文テストなどだ。

テーマに沿って、詩の本、ビデオ、カセット、お話の本の題名がリストにたくさん掲載されている。その中から子どもたちは好きなものを選び、読んだり見たりしたら、それぞれのスタンプやステッカーがもらえるという仕組みだ。たくさん読めば、たくさんのご褒美がもらえるので、子どもたちには励みになっている。

年々、この読書推進活動のための材料や提案を利用する学校が増えているが、いつ、どのようにしてこの活動を利用するかは、地方の図書館や学校に最大限の自由を認めている。国家事業としての取り組みである利点は、より広い視野と宣伝効果を持ち、より品質のよい材料を提供でき、しかも安価にできるということである。

2005年のテーマは“Dive into Time”。（過ぎ去りし時代を思い起こそう）。サブテーマとして、日常生活、祖父母の時代、旅行・交通、冒険と戦いなど。著名なイラストレーターがポスターを制作した。ご褒美（ちいさなパズルや景品）や、認定証、ブックマークなどは、NBD/B i b l i o n が作成する。これまでのテーマは、“Heroes, Stars and Idols”（2004年）、“True Stories?”（2003年）、“Miracles and Illusions”（2002年）。

読書推進活動のキットに入っているものは、

- ・ ブックリスト
- ・ 追補ブックリスト
- ・ Tips and Suggestions
- ・ トルコ語のブックリスト
- ・ アラビア語のブックリスト

ブックリストを作るにあたって、いつも注意しているのは、読解力の低い子どもたちや障害を持った子どもたちでも読めるような、やさしい読み物を必ず入れるということだ。こうすることによって、そういった子どもたちも差別されることなく、この活動に参加することができる。

活動のための材料は、NBD/B i b l i o n に注文できる。ブックリスト、追補ブックリスト、Suggestions は Children's Book Square (www.leesplein.nl) で検索、ダウンロードができる。プロジェクトのデータベースは、次のアドレスにアクセス可能。
<http://projecten.leesplein.nl/>

IFLA 児童・青少年分科会事務局長 Ingrid Bon & M.Koren
(2005年8月15日 IFLA オスロ大会におけるスピーチの抄訳)

イギリスからの報告

英国・夏の子ども読書チャレンジ The UK Summer Reading Challenge

<<http://www.readingvoyage.org.uk>>

「英国・夏の子ども読書チャレンジ」は、イギリスの最も大きな読書推進イベントで、毎年おこなわれているものです。イギリスの94%の図書館で行なわれ、4歳から11歳の子ども達60万人以上が参加し、1年で4万8千人が新たな会員になります。「チャレンジ」は国を挙げての大掛かりな読書推進イベントで、イギリス中の公立図書館ネットワークによって運営されています。このイベントが子ども達の読書に対する自信と楽しみを盛り上げていることは、調査でも明らかになっています。2005年度のテーマは、**The Reading Voyage** (読書への船出)です。「チャレンジ」は子ども達にひと夏で少なくとも6冊以上の本を読むように、インスピレーションと動機を与えます。参加する子ども達には素敵な「**Reading Voyage** 日誌」が与えられます。これはガレオン船に見立てられて、開けたり閉じたりできるようになっています。子ども達は選んで読んだ本をこの日誌に記録し、感想も書けるようになっています。本を返却する時に図書館の司書と本についておしゃべりもできます。またステッカーが渡され、それを日誌に貼っていくと、ガレオン船のパズルが解ける仕組みになっています。完成すると認定書とメダルがご褒美でもらえます。図書館は、最近の子ども達を本好きにするには本とコンピュータの連動が有益であることをよく知っていますから、全ての図書館ではインターネットにアクセスできるコンピュータを完備しています。「夏の子ども読書チャレンジ」のウェブサイトでは読書のたのしみについて様々な情報を提供しています。ウェブサイトをチェックしてみてください。

ブックスタート <<http://www.bookstart.org.uk>>

イギリス教育大臣、ルース・ケリーは先ごろ、ブックスタートが次のステージに進むことを述べ、「英国の子ども達全員に、3歳になるまでにブック・バッグをお渡しします」と発表しました。ブックスタートは、親たちが子どもに読み聞かせをすることで、早くから学習意欲や読書経験、図書館通いの習慣などをつけてもらおうというものです。このブックスタートは英国中で行なわれているプログラムで、子ども達に無料で本を、また親には案内書を提供し、できるだけ小さいうちから本に親しんでもらうことを目的としています。ブックスタートは **Department for Education** (教育省) や **Skills' Sure Start Unit** から長期間に渡る予算を確保され、ますます拡大しています。**Sure Start** は子ども達に教育、チャイルドケア、健康、家族サポートなどあらゆる観点から支援を行い、人生のよきスタートきってもらおうという政府のプログラムです。ブックスタートは心あるスポンサーにより実現されています。また地方や国の財源によっても支援されています。なかには20社以上の子どもの本の出版社や書店も含まれています。赤ちゃんむけのブックスタートパックは保健婦や図書館員の手で配布され、中には2冊の絵本(認定されたもの)と保護者のための案内書が入っています。2005年の10月から、さらに二つの新しいブックスタートパックが用意され、ブックスタート拡大版がイギリス全土で始まる予定です。幼児向けの「ブックスタート プラス」と、3歳向けの「私の宝箱」(**My Treasure Chest**)です。ブックスタートパックは図書館を通じて配布される事になっています。

就寝前の親子読書

ダービシャー図書館がピーターズ・ブックセリング・サービスと共同して、「就寝前の親子読書」という名前の新しいリーフレットを出しました。これは親にむけて出版されたもので、子どもと一緒に就寝前の本読みの楽しみ、それを習慣にするために役立つものです。図書館むけに販売されています。

IFLA 児童・青少年分科会常任委員 Annie Overall
(児童・青少年分科会ニューズレターの抄訳)